

総合診療学

(General Medicine)

【責任者/担当者】

〔総合診療内科学〕 新村 健 主任教授

【担当者】

〔総合診療内科学〕 長澤 康行 講師、山崎 博充 助教、立花 久大 名誉教授、
川端 啓太 非常勤講師、西岡 安弘 非常勤講師、楠 博 非常勤講師

【目的】

- ・総合診療及びプライマリケアの概要を理解する。
- ・プライマリケア医とホスピタリストの役割を理解する。
- ・よくある症状についての診断アプローチを理解する。
- ・医療と介護・福祉の関わり合いを理解する。

【科目キーワード】

「総合診療 (General Medicine)」「プライマリケア (Primary care)」「ホスピタリスト (Hospitalist)」「臨床推論 (Clinical reasoning)」「在宅診療 (Home healthcare)」「介護保険 (Long-term care insurance)」

【到達目標 (アウトカム)】

- プライマリケア医とホスピタリストの役割を説明できる。
- よくある症状について、鑑別診断を列挙できる。
- 患者の病歴と身体所見から適切な疾患 (群) を推定できる。
- 医学検査の必要性を判断し、結果を解釈できる。
- プライマリケアの概念と地域医療・保健・福祉との関わりを理解し説明できる。
- 在宅医療や介護保険の必要な患者を判断できる。
- 在宅療法の対象となる疾患を理解し、個々の疾患別の管理特性を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。

- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

総合診療学は、臓器、器官別の診療に捕らわれず、横断的視点から患者さんを観察し、適切かつ正確な診断を行うことを目的とする臨床医学分野である。そのためには、診察能力と臨床推論能力の向上を目指し、あらゆる分野の医学知識の体系的な統合が必要になる。また、総合診療を提供する医療分野として、プライマリケアの概念やその社会的位置づけ、役割を理解する必要もある。そこで、臨床実習を行う前に総合診療に必要な基礎的知識に関して、主に講義により理解を深めたい。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

前日までに参考図書の該当する部分に1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

授業参加態度(20%)

通常の参加態度を10%に設定し、積極的な授業参加や小テストの成績、優秀なレポート提出に対しては加点を行い、そうでない場合には減点を行う。

定期試験(80%)

出題形式は多肢選択問題、記述問題の組み合わせとする。定期試験は80点満点とし、出題数は講師の授業時間数により配分する。

上記を総合して100%として、65%以上を合格とする。

【学生への助言】

特になし

【フィードバック方針】

低正答率問題についての解説講義を行う。

【オフィスアワー】

曜日:月火水木金

時間帯:8:30~16:30

担当秘書:未定

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

教科書は特に使用しない。各講義時の配布資料中心の講義を行う。

【参考書】

「病院総合診療医学」日本病院総合診療医学会 編(大道学館出版部)2017年

(日本病院総合診療医学会 HP より購入可)

「ジェネラリストのための内科外来マニュアル(第2版)」金城光代、他 編(医学書院)2017年

「主要症候からみた鑑別診断学(第2版)」名尾良憲 著(金芳堂)2012年

【連絡先】

2号館 5階 総合診療内科 医局(0798-45-6865)